

# 美しい店

## ・社会的企業「美しい店」

美しい店は、訪れた日は韓国で 104 店舗目がオープンする日であり、TV 取材などで朝から混雑していた。

訪れたのは、1 号店のお店。韓国で初めてのフェアトレードコーヒーの販売やリサイクルショップをしている。カフェをしているのはこの本店を含め、4 店舗となっている。

美しい店は 2002 年に設立され、以下の三つの事業を行っている。

- ①リサイクルショップ
- ②フェアトレード
- ③廃棄物を利用して新しいものを作る事業

これらの事業で得た利益で、近隣諸国に住んでいる貧しい人たちを助けている。

## ・リサイクルショップ

社会的企業「美しい店」の主な活動はリサイクルショップ(③)である。市民が使わなくなったものを入れるボックス(①)を店や街中に設置したり、電話をもらえば回収に出かけたりもする。また無料で宅配できるシステムもある。

そうして集まった廃棄物を綺麗にして商品として売る。

しかしながら、人々の意識として、“要らないもの＝使えないもの”であり、8割は廃棄処分となる。使えないものではなく、使えるが使わないものを入れるようにしてもらいたいと考えている。

リサイクル商品の平均価格は1つ 2000 ウォンだが、今年度の売り上げは 200億ウォンある。

## ・多くのパフォーマンス

一般の売り物はなく、古本だけを取り扱っているところもあり、トラックなどで移動しながら売っているところもある。

また、毎週土曜日はハンガンの川沿いでフリーマーケットをしている。5月5日の子どもの日には、子ども達に自分たちの使っているものを持ってきてもらい、子ども達にもチャリティに参加する意味を教える教育をした。また、大規模なものでいえば、オリンピックスタジアムを使ってフリーマーケットを行い、2日間で20万人の来客があった。



①



②



③



④



⑤

④、⑤は美しい店の歴史

企業は広報力を持っているので、イベントなどで広報することに長けている。地方の放送局や新聞局などを後援としてキャンペーンすることも可能である。

また、マンションに直接ポスターを張りに行ったり、主婦たちの口コミを使って情報を広げる時もある。

こうした取り組みから、今では一定の認知度を獲得することができている。参考として、日本の神奈川県が生協などを視察したこともある。

従業員はマネージャー以外がほとんどボランティア(②)で、一店舗につき、40名ほどのボランティアが関わっている。正社員としてのマネージャーを雇うとき、大事にするのはマーケティング力である。

#### ・フェアトレード

韓国で初めてフェアトレードコーヒー(⑧)を扱っており、TVで通販販売などもしている。現在大型マーケットに卸しているが、約3000店舗で店頭に並んでいる。

#### ・収益の使い方

収益は社会的に困難を抱える階級の人たちの支援に使っている。

① 追い出されたときの住宅手当

② 入院費

③ 奨学金 などである。

しかしながら、支援するだけでなく、支援しなくてもよい地域づくりに収益を回すことも考えなくてはならないと思っている。店舗ごとの収益は中央センターに集められ、再配分される。収益を上げたところは配分も大きい。収益の15%は広報づくりなどで中央が管理する。

#### ・社会的企業に認証されることで

社会的企業と認証されることにより支給される人件費の補助を一般的な人件費増加に回さず、障害者やホームレスなどの人の人件費に充てている。



⑥



⑦



⑧

⑥左がマネージャーさん

⑦カフェ店内

# 美しい工房

## ・美しい工房

美しい店が運営している。

使えないものをデザイナーがお洒落な使えるものに変え、リサイクルに新しい価値を付けて販売している。美しい店と違うところはリユースではないところ。使えないものを使えるものにしながらいながらデザインを考えることはデザイナーにとって楽しい仕事である。美しい工房のショップにはフェアトレードの商品(①)や、携帯電話の部品の原料を採掘するときの環境破壊の犠牲者であるゴリラのヌイグルミ(②)なども販売されている。

## ・新しい価値がついたもの

破れた服→カバン(③)

ボタンでできた指輪(④)

ソファのカバー→財布(⑤)、キーケース(⑥)

横断幕→トートバック

固い紙で作られた広告板→写真立て



①



②



③



④



⑤



⑥

# 美しい財団

## ・美しい財団

美しい財団①は寄付金を集め、シングルマザーの創業支援や社会問題に取り組む市民団体の支援をしている中間支援組織。

美しい財団ではシングルマザー支援のマイクロクレジット事業をしているペ・ヒョンジュさん②がお話をしてくれた。

来年で10周年を迎え、現在10年間の募金活動の整理を行っている。

## ・韓国の寄付文化

韓国の寄付文化は決して高い水準ではない。しかしそうした寄付文化というものは大変大切なものだと考えている。寄付というのは特別な人が困った人にする、善良な人のみの行いのように昔から思われているが、そうではなくて、誰もが興味を持ち実践できるようにすることが大事だと思っている。

美しい財団では、老若男女が“分かち合い”の心を学ぶことが重要だと考えている。

## ・三つの寄付

①様々な取り組みをしたことにより、現在では定期的に寄付してくれる人が年間3万人になった。

募金活動の中で、特に一般市民からの募金が重要であり、“1%キャンペーン”を行っている。1%キャンペーンとは、主婦の生活費の1%、子どものお小遣いの1%、会社員の給与の1%など、負担のない金額を寄付しようと訴えるキャンペーンである。透明性を保つため、インターネットで常時寄付金の収集履歴などを公開している。

②GSというホームショッピングの企業と共同で貯金箱を開発した。7色の虹色のブロック⑤で、ブロックを重ねて④⑥、虹を作る。重ねる意味はともに社会問題を解決していく意識を持ってもらうことが狙いだ。貯金箱に貯まったお金は年末に行われるお祭りで回収する。

③個人寄付として、有名なタレントの寄付を募っている。多額の寄付に繋がる。



①



②



③



④



⑤

この上記の三つの寄付で、年間 100 億ウォンになる。そのうちの7割を配分している。

100 億ウォンは一般市民から 50%、企業からの 40%、個人からは 10%という割合になっている。

#### ・寄付の配分

配分に関しては、企業の意向などがあつたりしてとても難しい仕事になる。配分は人権や子ども・老人支援、脆弱層やシングルマザーなどに渡っていくが、配分委員会が配分先を決める。配分委員会は現場の人や常識者、市民代表などで構成されている。

評価に関しては寄付された団体が集まってワークショップをしてお互い確認する。基準を設けて審査するようなことはしていない。

また財団の中で重要な事業として市民社会団体の支援をしているが、これは地域社会、韓国社会を支援することになるからだ。



⑥



⑦

⑦パンフレット等

#### ・希望の店

シングルマザーの創業支援をする「希望の店」という事業もこの美しい財団の事業の一つだ。

韓国ではシングルマザーに対する偏見が多々存在する。しかしながら、離婚した場合8割の女性が子どもを引き取ることになる。

銀行のお金を貸すような経済システムを見ると、シングルマザーは担保や信頼がなく、一番、融資を受けにくい存在である。そうした状況からシングルマザーが安心して暮らせるように始まったマイクロクレジット事業が希望の店だ。

#### ・希望の店の現状

創業の準備段階から、事業の内容を一緒に検討し、お金を貸す。最大 4000 万ウォン貸すことができ、返済期間は7年である。営利目的ではないので、利子は 2%としている。現在のところ回収率は7割である。

業種は外食業、衣類などの流通業、美容院などのサービス業が主である。最近では外食業の競争率が高く、流通業もニーズの移り変わりが激しいので、サービス業を勧めている。

お金を貸せばシングルマザーが自立するわけではないので、経営者としての教育もしている。また、創業した女性たちのネットワーク作りもしている。これは事業や経営ノウハウの交換に役立っている。

編集 八尾市人権協会

住所 〒581-0004 八尾市東本町 3-9-19 312 号室

TEL : 072-924-9853 FAX : 072-924-0134

E-mail : oyaoya@oyaoya.org